

教科	数学	科目	数学 I	単位	3	対象	第1学年A組～E組
使用教科書 (出版社)	高等学校 数学 I (数研出版)		使用教材 (出版社)	4プロセス数学 I + A (数研出版)			

月	指 導 内 容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 時数
4月	整式の加法・減法 整式の乗法 因数分解	<ul style="list-style-type: none"> 整式の展開、因数分解の計算の習熟を図る。 展開や因数分解において、置き換えの工夫や複二次式など、様々な式の処理ができる。 	定期試験と平常時の総合評価	9
5月	実数・平方根の計算 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> 自然数、整数、有理数、無理数、実数のそれぞれの集合について、四則演算の可能性について判断できる。 絶対値を含む式を、場合分けをして、絶対値をはずした式で表すことができる。 分母の有理化ができ、対称式を解くことができる。 絶対値を含む方程式及び1次不等式を解くことができる。 	定期試験と平常時の総合評価	9
6月	集合と命題 関数とグラフ 2次関数のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 集合を用いて、命題の真偽が判断でき、2つの条件について、「必要条件」「十分条件」を判断できる。 2次関数を表す式を適切に処理しグラフの特徴を把握できる。そして、「2つの放物線の位置関係」の説明で活用できる。 	定期試験と平常時の総合評価	12
7月	2次関数の最大・最小 2次関数の決定	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフを活用して、制限された区間(开区間も含む。)における2次関数の最大や最小について考察できる。 2次関数を表す式を適切に処理し、「2次関数の決定」などの説明で活用できる。 	定期試験と平常時の総合評価	6
9月	2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> グラフとx軸との位置関係を、判別式 D の符号により判断できる。また、係数や定数項に文字が含まれる二次関数についても、グラフとx軸との位置関係を適切に場合分けして考察することができる。このことから、2次不等式を理解し、係数に文字が含まれる場合なども、解を求めることができる。 	定期試験と平常時の総合評価	12
10月	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の相互関係を鋭角の三角比の定義に基づいて説明することができ、三角比やその相互関係を適切に活用できる。 三角方程式及び三角不等式を 0° から 180° までの範囲で解くことができる。 	定期試験と平常時の総合評価	12
11月	正弦定理 余弦定理	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 	定期試験と平常時の総合評価	12
12月	正弦定理と余弦定理の応用	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の決定条件等と関連付けて理解することにより、正弦定理、余弦定理を正しく活用し、三角形の形状を推測できる。 	定期試験と平常時の総合評価	6
1月	三角形の面積 空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形や三角形の内接円の半径などの考察について、正弦定理・余弦定理・三角形の面積などを活用できる。 	定期試験と平常時の総合評価	9
2月	データの代表値・散らばりと四分位数 分散・標準偏差・相関	<ul style="list-style-type: none"> 最小値、第1四分位数、第2四分位数(中央値)、第3四分位数、最大値や箱ひげ図などから、データの特長を捉えることができる。 分散、標準偏差、相関係数等の意味を理解し、散布図等が表す形状との関係を把握し、説明することができる。 	定期試験と平常時の総合評価	12
3月	数学 I の復習と発展 解と係数の関係、整式の除法・因数定理	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の既習内容を復習する。 解と係数の関係の理解と応用を身につけさせる。多項式の除法、因数定理を理解させる。 	定期試験と平常時の総合評価	6